

Sun. Jul 9, 2017

Poster Presentation Area

Poster(multiple job category) | 教育・管理

Poster (multiple job category) 3 (III-TRP3)

Chair:Fujiyo Miwa(Fukuoka Children's Hospital)

1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP3-01] CCU病棟におけるバンコマイシン TDMの取り組み

○池谷 健一, 坪井 彩香, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-02] CCU病棟における薬剤師業務

○坪井 彩香, 池谷 健一, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-03] 小児心疾患患児の術前多職種カンファレンスに対する看護師の意識調査

○仁平 かおり¹, 竹内 美穂¹, 杉澤 栄² (1.筑波大学 附属病院 看護部, 2.関西医科大学附属病院 看護部)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-04] 新人看護師に対するOJTの有効性-内服薬の投与後の経胃管チューブの閉塞によるインシデントからの考察

○春日 美緒, 佐藤 里絵子, 新井 聡美, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-05] 循環器集中治療室におけるクリニカルラダーの見直し

○山田 尚美, 佐野 仁美, 山下 直人, 望月 美佐, 杵塚 美知 (静岡県立こども病院 循環器集中治療室)

1:00 PM - 1:30 PM

Poster(multiple job category) | 心理・プレパレーション

Poster (multiple job category) 4 (III-TRP4)

Chair:Kana Harada(Toho University Omori Medical Center)

1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP4-01] 長期入院によるストレスを自傷行為で表現した子どもへの看護ケアの実際

○岸田 千春, 上甲 貴江, 平野 麻美子 (広島市民病院)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-02] プレパレーションを用いた採血方法の工夫—1歳の拘束型心筋症児への関わり—

○浜本 知美, 小谷 弥生, 都丸 八重子 (群馬県立小児医療センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-03] 重症な成人先天性心疾患患者の終末期の心理的支援—1事例の心理面接から

○松尾 加奈, 大内 秀雄, 根岸 潤, 鍛冶 弘子, 白石 公 (国立循環器病研究センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-04] 術後に活かせる術前訪問の検討

○大石 志津, 杵塚 美知, 旗持 真理子 (静岡県立こども病院)

1:00 PM - 1:25 PM

Poster(multiple job category) | 教育・管理

Poster (multiple job category) 3 (III-TRP3)

Chair:Fujiyo Miwa(Fukuoka Children's Hospital)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP3-01] CCU病棟におけるバンコマイシン TDMの取り組み

○池谷 健一, 坪井 彩香, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-02] CCU病棟における薬剤師業務

○坪井 彩香, 池谷 健一, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-03] 小児心疾患患児の術前多職種カンファレンスに対する看護師の意識調査

○仁平 かおり¹, 竹内 美穂¹, 杉澤 栄² (1.筑波大学附属病院 看護部, 2.関西医科大学附属病院 看護部)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-04] 新人看護師に対する OJTの有効性-内服薬の投与後の経胃管チューブの閉塞によるインシデントからの考察

○春日 美緒, 佐藤 里絵子, 新井 聡美, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター)

1:00 PM - 1:30 PM

[III-TRP3-05] 循環器集中治療室におけるクリニカルラダーの見直し

○山田 尚美, 佐野 仁美, 山下 直人, 望月 美佐, 杵塚 美知 (静岡県立こども病院 循環器集中治療室)

1:00 PM - 1:30 PM

1:00 PM - 1:30 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-01] CCU病棟におけるバンコマイシン TDMの取り組み

○池谷 健一, 坪井 彩香, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

Keywords: CCU, TDM, バンコマイシン

【目的】循環器集中治療病棟(CCU)では、2013年9月から薬剤適正使用と医療安全向上を目的として病棟薬剤業務を開始した。病棟薬剤業務において抗菌薬の薬学的管理は重要な業務であり、その中でもバンコマイシン(VCM)は薬物治療モニタリング(TDM)が必要とされ、薬剤師による介入が求められる薬剤である。本研究では現在行っているVCMのTDM業務について報告する。【方法】CCUに入院しVCMを使用した患者を対象とし、患者背景(年齢、体重、体外循環装置の有無、投与目的等)、VCM血中濃度測定及び解析件数、介入率、処方変更提案率、提案受諾率を調査した。解析の精度評価を目的として、投与方法変更症例のトラフ濃度10~20 µg/mLへの到達率を調査した。なお、本研究は倫理委員会の承認を得ている。【結果】対象患者は28名であり、年齢中央値0.86歳(15日齢~17歳)、体重中央値6.02 kg (2.72~35.6 kg)、体外循環装置を使用した症例3件(体外式膜型人工肺(ECMO)・持続的血液透析濾過療法(CHDF)2件、腹膜透析(PD)1件)、投与目的は予防18件、治療15件であった。VCM血中濃度測定件数は98件であり、解析件数は44件、介入率は89%となった。また処方変更提案率は91%(増量:20件、維持または増量:1件、減量:19件)、処方変更提案に対する受諾率は98%であった。投与量変更後、血中濃度評価が可能だったのは22件、そのうち推奨トラフ濃度に到達した割合は77%だった。【考察】CCUの患者年齢は新生児から成人期と幅広く、術後の体内動態の変動や体外循環装置の使用などの特殊性もことからTDMの重要性が再認識された。血中濃度測定患者には9割以上で介入することができ、処方提案に対してはほぼ全例で受諾された。その結果、概ね推奨トラフ濃度へ到達しており、VCMの適正使用に薬剤師が十分貢献できることが示唆された。今後はさらなる介入率及び解析精度の向上に努めていきたい。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-02] CCU病棟における薬剤師業務

○坪井 彩香, 池谷 健一, 岩崎 剛士, 山崎 友朗, 宇津木 博明, 平野 桂子 (静岡県立こども病院 薬剤室)

Keywords: CCU, 病棟薬剤師業務, 薬剤管理指導

【目的】循環器集中治療病棟(CCU)は10床からなり、心臓外科術後の管理など循環器疾患に対する高度専門医療を提供している。CCU病棟では麻薬やハイリスク薬剤が多く用いられているため、以前より薬剤師による関与が医師、看護師から求められていた。そのため適正な薬剤管理と医療安全面の向上を目的として2013年9月よりCCU病棟における病棟薬剤師業務を開始した。本発表では病棟薬剤師業務の稼働状況を報告する。【方法】CCU病棟における薬剤師業務について実施件数の集計を行い、業務内容の推移と効果を検証した。本研究は倫理審査の承認を得ている。【結果】CCU病棟において担当薬剤師は、薬剤管理指導業務(服薬指導、処方鑑査、注射薬の配合変化、投与速度、副作用等のチェック、TDM等)、問い合わせ対応及び薬剤情報提供業務、麻薬・向精神薬等病棟配置薬の管理業務を実施した。業務開始当初は、流速チェック等注射薬における確認作業が主体となっていたが、徐々に配薬された内服薬の確認など内服薬への関与も多くなった。問い合わせ・疑義照会件数は経年的に上昇した。問い合わせの多かった配合変化について早見表を作成し活用した。【考察】CCU病棟に薬剤師が滞在することにより、問い合わせに対して迅速に対応できるようになった。内服薬投与時および注射薬調製・更新時のダブルチェックに薬剤師が加わることで、看護師同士で行っていた作業を異なる職種間で行うことによる医療安全の向上に繋がるものと考えられた。薬剤師による麻薬、向精神薬等の医薬品管理業務は看護師の負担軽減に繋がっていると考えられる。【結論】CCU病棟における薬剤師業務は、医師・看護師の負担軽減や医療安全に寄与する可能性が示唆された。今後は、医師・看護師との連携を充実させ医薬品の適正使用に貢献していくとともに、薬剤管理指導業務や薬剤情報提供の充実を図っていきたい。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-03] 小児心疾患患児の術前多職種カンファレンスに対する看護師の意識調査

○仁平 かおり¹, 竹内 美穂¹, 杉澤 栄² (1.筑波大学附属病院 看護部, 2.関西医科大学附属病院 看護部)

Keywords: 多職種カンファレンス, カンファレンスへの意識と意欲, 質問紙調査

【背景】 A病院では2013年より先天性心疾患で心臓手術をうける小児患者を対象に術前多職種カンファレンスを実施している。各職種からの治療方針やケア計画、術前の問題点と対策などを情報共有し議論する場としている。しかし、看護師からの計画の提示や疑問、質問などの発言がほとんど見られないのが現状である。【目的】 術前多職種カンファレンスに参加する看護師の実態を明らかにし、今後のカンファレンスの運営の改善をめざす。【方法】 術前多職種カンファレンスの参加対象である、入院から退院までに患者に関わる看護単位（小児病棟・NICU・GCU、小児ICU、中央手術室）の看護師に無記名の自記式アンケート調査を実施した。なお、本研究は筑波大学附属病院倫理審査委員会の承認を得て実施した。【結果】 アンケート回収率は31%であった。多職種カンファレンスに参加したいと考える人は100%であったが、カンファレンスの存在自体を知らないスタッフがいた。血行動態や術前の病態、術式や術後ケアのポイントを理解度に関わらず理解できたと100%が回答していたが、36%が病態や治療の説明を増やしてほしいと回答していた。発言することへの困難感を感じている人が57%で、カンファレンスで発言することに対する自信と知識不足を感じていた。【考察】 カンファレンスで得た内容を基に看護ケアが提供できるようになったと答えており、カンファレンスはケアを洗練する場となりうる。一方、看護師からの発言が少ないことが現状にあり、有意義なカンファレンスとはいえないと考える。看護師の専門的な実践能力、多職種とのコミュニケーション力を育成することで有意義なディスカッションにつながると考えられる。【結論】 多職種カンファレンスは、周術期看護を提供する上で重要である。発言への困惑感を感じている看護師も多く、今後のカンファレンスの運営方法の改善や専門的知識、コミュニケーション力の育成が課題である。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-04] 新人看護師に対する OJTの有効性-内服薬の投与後の経胃管チューブの閉塞によるインシデントからの考察

○春日 美緒, 佐藤 里絵子, 新井 聡美, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター)

Keywords: インシデント, OJT, 内服管理

【背景】 先天性心疾患の治療は、循環作動薬に加え、利尿薬や電解質補正薬の投与が必要である。内服薬投与の場合、経管栄養管理中は経胃管チューブ（以下 NGチューブ）からの注入投与であるが、新人看護師が NGチューブの閉塞による内服薬のインシデントを発生させている状況があった。そのため新人看護師のインシデント発生要因を分析後、NGチューブの内服薬の投与方法に関する、配属部署教育（On-the-Job Training；以下 OJT）（内服薬の攪拌方法、溶解に使用する白湯の温度・量、実際に閉塞したチューブの様子、NGチューブの閉塞が児に及ぼす影響）を実施した。今回、OJTの実施前後での、チューブの閉塞による内服薬のインシデント発生件数と発生要因の変化を明らかにすることで OJTの有効性について考察した。【目的】 NGチューブからの内服薬の投与方法の OJTの有効性について明らかにする。【方法】 対象：OJT実施前（2015年5月～2015年8月）と OJT実施後（2016年5月～8月）に発生した、新人看護師のインシデント8件。調査方法：インシデントの集計記録から発生状況を後ろ向きに調査。分析方法：OJT実施前後のインシデントの内容を発生状況から分析し発生要

因との関連性について考察。倫理的配慮：院内倫理審査委員会にて承認を得た。【結果】OJT実施前のインシデントは8件、OJT実施後は0件であった。発生要因は、内服薬の攪拌不足、水分の温度不適切、水分量不足であった。OJTでは、実際にNGチューブを用いたチューブ閉塞の体験、内服薬で閉塞したチューブの先端の観察を実施。その後、適切な攪拌方法（水分量・温度）、閉塞が児に及ぼす影響について教育した。【考察】経験不足によるインシデント発生要因を理解し、実際に閉塞の体験による具体的状況を示すことがリスク回避につながったといえる。OJTにおいて、新人看護師の特徴を捉えた実践的教育が必要である。【結論】OJTの実施はインシデント発生防止に有効であった。

1:00 PM - 1:30 PM (Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:30 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP3-05] 循環器集中治療室におけるクリニカルラダーの見直し

○山田 尚美, 佐野 仁美, 山下 直人, 望月 美佐, 杵塚 美知 (静岡県立こども病院 循環器集中治療室)

Keywords: クリニカルラダー, 人材育成, 成人学習

【背景】循環器集中治療室では、効果的な人材育成を目的とし2012年よりクリニカルラダーを使用している。4年経過し、新人看護師や異動者が多くなり、教育指導の強化が求められてきた。そのため、クリニカルラダーの問題点を抽出し、学習者に即するものに改正することで活用を目指す。【倫理的配慮】A病院の倫理審査で承認されている【目的】クリニカルラダーを改正し、効果的な教育体制を整える【方法】1.スタッフへのアンケートの実施。現在の教育プログラムとクリニカルラダーの活用に関して9項目の内容でアンケートを実施2.アンケート結果と現状をもとに問題点の抽出3.成人学習論から成人学習を捉える4.方法1.2.3に結果よりクリニカルラダーの改正【結果】アンケート回答36名。問題点として、1.クリニカルラダーの自己評価の困難さ、2.評価方法のばらつき、3.学習者の問題、の3点が明確となった。それぞれの問題点に対し、ラダーの内容修正、評価方法の基準設定、評価表の修正を行った。【考察】学習者が問題課題を意識し行動するためには、まず自己の能力を適正に認識する必要があると考える。しかし、成長段階にある学習者が自己を客観的判断することは難しく他者による修正が必要となる。当院では教育指導を必要とする学習者が半数以上を占めており、学習者の能力を適正に評価できていない。今回、他者評価基準を追加したことで、評価方法の統一化が図れた。また、学習者の特性として主体性の低下や課題意識の低下があげられる。成人の学習では自主性が必要である。そのため、学習者が自己の学習計画に参加することで、自発的に行動できると考える。そして、目標達成は自己の成長を実感し自信となり、学習意欲を高めることができると考える。【結論】能力向上のため自己能力を適正に認識することは、目標探求に必要である。学習者が自己の学習計画に参加することは自主的に自己能力向上に努めるきっかけとなる。

Poster(multiple job category) | 心理・プレパレーション

Poster (multiple job category) 4 (III-TRP4)

Chair:Kana Harada(Toho University Omori Medical Center)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[III-TRP4-01] 長期入院によるストレスを自傷行為で表現した子どもへの看護ケアの実 際

○岸田 千春, 上甲 貴江, 平野 麻実子 (広島市民病院)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-02] プレパレーションを用いた採血方法の工夫—1歳の拘束型心筋症児への 関わり—

○浜本 知美, 小谷 弥生, 都丸 八重子 (群馬県立小児医療センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-03] 重症な成人先天性心疾患患者の終末期の心理的支援—1事例の心理面接 から

○松尾 加奈, 大内 秀雄, 根岸 潤, 鍛冶 弘子, 白石 公 (国立循環器病研究センター)

1:00 PM - 1:25 PM

[III-TRP4-04] 術後に活かせる術前訪問の検討

○大石 志津, 杵塚 美知, 簗持 真理子 (静岡県立こども病院)

1:00 PM - 1:25 PM

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-01] 長期入院によるストレスを自傷行為で表現した子どもへの看護ケアの実際

○岸田 千春, 上甲 貴江, 平野 麻実子 (広島市民病院)

Keywords: 長期入院, ストレス, 学童期

【背景】重症先天性心疾患患児ではしばしば長期入院が必要になるが、子どもは自分の思いを上手く表現できず、強いストレスを受けていることが伝わりにくい。今回、肺動脈閉鎖、心室中隔欠損術後で肺高血圧、右心不全を伴い、入院中自傷行為が持続した22番染色体微細欠失症候群の10歳女児の事例を経験した。【目的・方法】自傷行為でストレスを表現した重症 CHD患児の経過を振り返り、長期入院が必要となる子どもに対する看護のあり方、看護師の役割を明らかにする。【倫理的配慮】患児と家族に説明を行い、承諾を得、A病院倫理委員会の承認も得ている。【結果・考察】ストレス軽減を目的とした看護ケアとして、まず患児と看護師で1日の時間割を作成し、短時間でもプレイルームや院内学級を個別利用できるよう調整した。厳しい安静度の中、遊びは心身に静的なものを保育士と相談し提供した。次に家族団欒の食事時間を取り入れた。意識的にバランスの取れた食事を摂取できるように食物の栄養素を色分けしたシールを貼って花を作るパンフレットを作成した。偏食が改善し花のシールの色に変化がみられた。さらに学童期の女児である患児が思いを表現するために、看護師や医師との交換日記を提案した。患児は積極的に日記を書いて文章に思いを表出し、次第に話す言葉に思いを表現できるようになった。また患児との関わりに悩んでいた家族に対しては、患児と離れて気持ちの整理ができるための時間を創るよう調整した。環境にメリハリが付き、思いが表出でき始めると患児の精神状態は安定し、自傷行為は消失した。右心不全、肺高血圧も軽快し入院5か月目に退院となった。【結論】入院中でも子どもらしい生活リズムを整えることは重要である。年齢・性格に合わせた看護介入を行い、看護師・医師・保育士がチームで関わることで、子どものストレスは軽減し、自傷行為は消失した。さらには家族の精神的支援にも繋がった。

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-02] プレパレーションを用いた採血方法の工夫—1歳の拘束型心筋症児への関わり—

○浜本 知美, 小谷 弥生, 都丸 八重子 (群馬県立小児医療センター)

Keywords: プレパレーション, ディストラクション, 採血

【背景】1歳児は「感覚運動位相」であり、自己の感覚と運動により事象を認知していくため、自己の思考により物事を見る事が出来ない時期である。そのため、必要な検査や処置を受け入れ対処行動を取ることはできない。今回、1歳の拘束型心筋症児に対して行ったディストラクションを用いた採血方法への援助を検討し、患児や家族への看護を振り返ったので報告する。【目的】1歳の拘束型心筋症児に対し、採血時に行ったプレパレーションやディストラクションの看護の実際を振り返り、効果的な方法を検討する。【倫理的配慮】研究の趣旨を説明し院内外で公表すること、個人を特定できないようにすること、研究への参加は自由意思であり途中でも撤回できること、不参加の場合でも不利益は被らないことを説明し、口頭と文書で母親に同意を得た。A病院看護部研究倫理委員会の承認を得ている。【看護の実際】Aちゃんの採血での反応、母親の言動、看護の実際等、看護記録をもとに後方視的に振り返り検討した。初めは看護師が必要最低限の固定をして採血を行ったため、Aちゃんは激しく啼泣し、不整脈や嘔吐等の症状が見られた。抱っこ採血、病棟保育士の遊びの介入、DVD視聴、皮膚表面麻酔薬の導入等のディストラクションを徐々に取り入れて実施した。結果、児からは「アニメを見に行きたい」と自ら処置室に向かうような発言が聞かれ、実施中も啼泣せずに過ごせたり、啼泣しても帰宅時には笑顔が見られるようになった。また、母親へは児の好きなキャラクターや遊びをどのように取り入れるか一緒に考え実施した。「これで泣かずに採血できる」等、満足感のある言動が聞かれるようになった。【考察】感覚運動期に

ある1歳児への採血方法を工夫し、複数のディストラクションを組み合わせ評価しながら行う事は効果的であったと考える。また、母親とより良い方法を検討し、個別性のある環境を整えられたことも有意であったと考える。

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-03] 重症な成人先天性心疾患患者の終末期の心理的支援—1事例の心理面接から

○松尾 加奈, 大内 秀雄, 根岸 潤, 鍛冶 弘子, 白石 公 (国立循環器病研究センター)

Keywords: 成人先天性心疾患, 終末期, 心理的支援

〔目的〕重症な成人先天性心疾患(ACHD)患者の終末期は、2、30代という本来なら将来に思いをはせる時期に入院を余儀なくされ、親よりも先に亡くなってしまふことを意識しなければならない。また、精神発達のにも未熟で親への依存もみられる。そのため、重症な ACHD患者の終末期に特有のものがあると考え。今回、重症な ACHD患者との心理面接過程を振り返り、重症な ACHD患者の心理的側面からの理解を深め、どのような関りが必要なのかその支援について考える。〔方法〕20代男性、フォンタン術後患者。面接開始時は心疾患に加え多臓器機能低下により長期入院していた。X年8月～X+1年11月に週1回約50分臨床心理士による面接を実施した。その面接記録を振り返り検討する。本事例を発表するにあたり、ご家族に了承を得て個人の特定ができないようプライバシー保護に配慮した。〔結果〕面接は一般的な心理面接のように自身の気持ちに向き合うことは難しく、ゲームや好きなテレビの話で終わる回もあったが、心理士は語ることを無理強いせず、継続して毎週面接することでいつでも話せる場を保とうとした。小児期に友達と普通に遊んだ楽しい日々を生き生きと語る一方で、成人期に入院が増えた現状を「仕方がない」と冷静に受け止めながらも「外泊だけでも」と訴えていた。病態が急変し集中治療室に移った際には、「死」を受け入れたくない強い思いや、延命処置について家族の希望と異なることへの葛藤が語られた。その後はいつまた急変するか分からない恐怖心を抱え、自身の葬式の話や家族への思いがたびたび語られ、心理士はどうすることもできないもどかしさを感じた。〔考察〕重症な ACHD患者の終末期に寄り添うことで、患者自身の「死」への受け止め方、家族との関係などが見えてくる一方で、抱えているもどかしさも感じられた。関わっている医療者が情報だけでなく感情の共有をすることが心理的支援につながると考えた。

1:00 PM - 1:25 PM (Sun, Jul 9, 2017 1:00 PM - 1:25 PM Poster Presentation Area)

[III-TRP4-04] 術後に活かせる術前訪問の検討

○大石 志津, 杵塚 美知, 簗持 真理子 (静岡県立こども病院)

Keywords: 術前訪問, 術後ケア, プリパレーション

〔背景〕心臓疾患で手術を行う患者は、術前は循環器病棟で過ごし、術後、循環器集中治療室に入室する。その為、術後のケアに必要な情報を得る事と、患者、家族の不安を軽減する事を目的に、平成20年より術前訪問を実施している。しかし、看護師の情報収集能力に差があり、必要な情報が得られないということや、情報が看護計画に反映されず、看護介入が継続されない事が多い。〔目的〕術前訪問の改善〔方法〕1. 術前訪問用紙の変更2. プリパレーション方法の修正3. 得た情報をケアに反映する為、疼痛・早期離床の勉強会を実施4. 変更後に看護師に質問紙調査を実施〔倫理的配慮〕当院の倫理委員会の承認を得た〔結果〕質問紙からは、循環器集中治療室の看護師の85%が必要な項目を共通認識することができ、情報収集がしやすくなったと回答。プリパレーションの変更は、85%が患者への説明がしやすくなったと回答。疼痛と早期離床の勉強会は85%が参考になったと回答したが、そのうち看護計画の立案ができたのは68%だった。〔考察〕術前訪問用紙を変更したことで、どの看護師で

も、術後ケアに向けた情報収集ができるよう改善された。又、プリパレーションの内容を変更したことで、説明がスムーズにできるようになり、患者、家族も術後の状態、疼痛スケールや緩和のため投薬の必要性、ADL拡大の重要性がイメージできるようになったと考える。しかし、今回の調査で、急性期後の疼痛、早期離床についての看護計画の立案、実施が不十分であることが明確になり、さらなる介入が必要である。[結論]術前訪問の方法を見直し、術後までの看護の振り返りを行ったことで、ケアに必要な情報収集能力は向上した。術後ケアの課題が明確となった。術前術後で病棟移動がある中で、継続看護を提供できるシステムを構築する第一歩となった。